

[海外研究・教育活動]

第24回ICNアフリカ大会へ参加して

新潟医療福祉大学 健康科学部 看護学科 松井 由美子

4年に一度の国際看護師協会（International Council of Nurses 以下「ICN」という）の大会が、2009年6月27日から7月4日まで南アフリカ共和国のダーバンで開催されました。ICNは世界各国の看護師協会から構成される非政府組織で、国際医療専門団体として1899年に世界で初めて設立された最大の組織であり、2009年7月現在133カ国が加盟しているそうです。そして、設立以来、初めてアフリカ大陸で大会が開催されました。

参加者は129カ国約6,000人で、アフリカ大陸から3,600人、日本から120人が出席したと、日本看護協会より報告されています。大会テーマは、「変革をリードし、より健康な国づくりを（Leading Change : Building Health Nations）」で、全演題数は1,302題を数え、日本人による発表は67題だったそうです。

私は10のサブカテゴリーの中から「看護教育と学習環境」のセッションに参加し、ポスター発表を行いました。あらゆる国からの参加者で会場は活気と熱気に満ち、活発な意見交換が行われました。陽気なアフリカのナースたちは、何人か集まるといつも歌って踊ってあちこちで輪が広がり、開会式と閉会式は共にダンスで始まりダンスで終わった楽しい大会でした。

南アフリカでは来年開かれるワールドカップに向けて準備が着々と進められ、ダーバン市内や空港のあるヨハネスバーグでは会場の建設が行われています。しかし、治安は決して良くなく、私たち日本人宿泊客もホテルから一人では外に出ないよう指示され、会場である国際コンベンションセンターはホテルから目と鼻の先にありましたが、必ずバスで移動を行い、すべて団体行動を余儀なくされました。

しかし、アフリカの子どもたちとどうしても会いたいという私の願いは叶い、レソト王国を訪れた際に、カラフルなショールをまとったかわいい子どもたちと出会いました（写真）。2年後はICN学術集会在マルタ島で、4年後にはICN大会がメルボルンで開催予定です。今後は学生の参加も積極的に呼び掛けていきたいと思っています。

